



サハリン樺太史研究会
2019 年度活動報告書

2021 年 3 月 31 日
サハリン樺太史研究会

—2019 年度活動報告書—

目次

会長あいさつ

活動概要

例会・関連シンポジウム等

研究成果刊行物（付：参考資料 非会員による研究成果刊行物）

研究プロジェクト（付：参考資料 非会員による研究プロジェクト）

サハリン樺太史研究会会則・役員

報告書刊行について

本会は 2008 年 7 月に発足した。その後、例会開催、共同調査実施を重ね、さらに 2010 年には研究会誌を刊行、2011 年より公式 HP を開設し、研究会内外への発信にも力を入れるようになった。年度活動報告書も 2008 年度分から刊行し、2018 年度活動報告書は 11 冊目の年度活動報告書となる。

2011 年度分以降、参考資料として非会員の研究動向も日本国内限定ではあるものの掲載することとした。このことによって、日本国内のサハリン樺太史研究全体における本会の位置がより明確になろうし、また本報告書によって、完全にまでとはいかないものの、日本国内におけるサハリン樺太史研究の全体的動向を俯瞰することが可能になればと編者として願う。

なお、本報告書記載の情報の一部はインターネット上の情報を参照したものであり、若干の不正確さが残っていることがあり得ることをことわっておく。また、会員については本報告書編集時点で本会のメンバーリストに登録している者を指しており、当時は未会員であった場合もあることはご了承ください。

本報告書の 2017 年度版までに掲載された文献については、下記より検索可能であり、一部ではあるが英文書誌情報や要旨なども閲覧可能である。2018 年度分以降も随時掲載していく予定である。本報告書各年度版と合わせて、サハリン樺太史研究の動向を知るために役立てば幸いである。

サハリン/樺太史研究文献 DB

http://app.cias.kyoto-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000311karafutoHIS2

2021 年 3 月 31 日

中山大将

(サハリン樺太史研究会世話人兼公式HP運営担当者)

—会長あいさつ—

サハリン・樺太は、前近代においては先住民を担い手とした、大陸側から千島列島にいたる海を介した交易ルートの一環であり、近代には日本とロシアの接触地域をなし、両国間で何度も国境線の引き直しと大規模な人口移動が繰り返された特異な歴史を有する島です。

この島の呼称も、幕末までは「北蝦夷地」とよばれ、明治初年から「樺太」とよばれるようになり、全島ロシア領有に変わると「薩哈噠」の3文字が当てられました。日露戦争後の北緯 50 度以南日本領有により、ふたたび「樺太」となり、第二次世界大戦後はサハリンと呼ぶことが一般的となりました。

近年、この島に改めて歴史研究の光を当て、この島の住民が幾世代にも亘って関わった歴史的経験を捉え直そうとする機運が日本、ロシア双方で高まりつつあります。また、日本とロシアとの研究交流は、今世紀に入り、活発に行われるようになりました。たとえば、北海道大学スラブ研究センターとサハリン大学を拠点として、「ロシアの中のアジア／アジアの中のロシア」第 5 回研究会「サハリン・樺太の歴史」(2004 年 7 月 29 日～30 日)、同第 11 回研究会「サハリン・樺太史セミナー(Ⅰ)」(2005 年 9 月 21 日)、同第 13 回研究会「サハリン・樺太史セミナー(Ⅱ)」(2005 年 12 月 3 日)、「日本とロシアの研究者の目から見るサハリン・樺太の歴史」(2005 年 11 月 1 日～2 日、2006 年 2 月 16 日～17 日)、「国際シンポジウム：サハリンの植民の歴史的経験」(2008 年 5 月 6 日～7 日)と幾度も研究会が開催されてきました。そして 2008 年の「国際シンポジウム：サハリンの植民の歴史的経験」開催後に、シンポジウム参加者を中心に 2008 年 7 月、サハリン・樺太史研究会が発足しました(初代会長：原暉之北海道大学名誉教授)。

サハリン・樺太史研究会は、これまでの樺太史・サハリン史研究が日本、ロシアにおいて、それぞれ別個に行われてきたことを踏まえ、双方の研究成果を学ぶとともに双方の研究成果の交流、資料保存情報の交流などの研究交流を進め、「一国史」ととらわれないサハリン・樺太史を描くことを目標としています。

本会は札幌を拠点として研究会、シンポジウムを定期的に(年間 5 回程度)開催しております。これら研究会、シンポジウムは参加自由で、どなたでも参加できます。サハリン・樺太史の研究に関心をお持ちの方は、本会事務局にお知らせいただけましたら、案内メールを差し上げます。

2013 年 12 月 17 日

サハリン樺太史研究会会長 白木沢旭児(北海道大学大学院文学研究科教授)

—活動概要—

『北方人文研究』に 10 周年国際シンポジウム「世界におけるサハリン樺太史研究」特集記事

2018 年に 10 周年記念事業として開催した国際シンポジウム「世界におけるサハリン樺太史研究」の特集記事が『北方人文研究』第 13 号(北海道大学大学院文学研究院北方教育センター)に掲載された。2018 年に刊行された日本植民地研究会編『日本植民地研究の論点』(岩波書店)ではまったく言及されることの無かったサハリン樺太史研究の進展とその全容が示されることとなった。

例会の釧路開催

世話人のひとり中山大将の釧路転任にあたり、同地での例会開催が実現した。札幌以外での例会開催は 2011 年の稚内開催以来となる。釧路市中央図書館での例会では、鈴木仁による樺太生まれで戦後は釧路に活動の拠点を求めた荒澤勝太郎に関する報告などがなされた。また、釧路文学館、釧路市立博物館、旧太平洋炭礦炭鉱展示館の見学会も実施された。

新型コロナウイルス感染拡大の影響

2020 年 2 月 29 日には北海商科大学を会場とし例会を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い延期することとなった。

その他例会の動向

第 54 回例会では北サハリンに関する兎内勇津流、天野尚樹の報告が、第 57 回例会では漁業の観点からの佐々木貴文、小岩信竹の報告がなされたほか、第 56 回例会では、評者を研究会外部から招き中山大将『サハリン残留日本人と戦後日本』の書評会を実施した。

新規研究費の増加

会員である醍醐龍馬、兎内勇津流、玄武岩、藤本健太郎らが科研費が新規に採択された。また、非会員においても古代史や人類史の新規科研費も採択され各種研究プロジェクトが立ち上がった。

ソ連占領初期南サハリン史料勉強会

兎内勇津流会員が主催するソ連占領初期のソ連公文書の勉強会は、引き続き活動を続けている。

(2019 年度末会員数:117 名)

—例会・関連シンポジウム等—

■ 第 54 回例会

日時:2019 年 6 月 29 日

場所:北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W202 室

総会

報告 尼港事件はどのようにして起こったか: 三月とその前後…………… 兔内勇津流(北海道大学)

報告 北サハリン占領:意図・実態・国際環境…………… 天野尚樹(山形大学)

■ 第 55 回例会

日時:2019 年 9 月 15 日

場所:釧路市中央図書館3階会議室・釧路文学館

見学会 文学館展示

報告 樺太時代の荒沢勝太郎:「樺太文学史」執筆の背景…………… 鈴木仁(北海道大学)

報告 樺太庁長官大津敏男はなぜ逮捕されたのか:国民義勇隊とソ連の占領統治…………… 井潤裕(北海道大学)

16 日:釧路市立博物館、旧太平洋炭礦炭鉱展示館の見学会

■ 第 56 回例会

日時:2019 年 11 月 2 日

場所:北海道大学人文社会科学総合教育研究棟 2 階 W202 室

書評 中山大将『サハリン残留日本人と戦後日本:樺太住民の境界地域史』(国際書院、2019 年)

評者 浅野慎一(神戸大学)

外村 大(東京大学)

共催:

北海道大学大学院文学研究院北方研究教育センター

新学術領域研究(研究領域提案型)「市民による歴史問題の和解をめぐる活動とその可能性についての研究」

 第 57 回例会

日時:2019 年 12 月 21 日

場所:北海道大学人文社会科学総合研究教育棟 W202

報告 国策と漁業:北の海を目指した近代日本の若者たち佐々木貴文(北海道大学)

報告 日本統治下の樺太における漁業制度の変遷とその特質小岩信竹(東京海洋大学)

共催:政治経済学・経済史学会北海道部会

科学研究費基盤研究(A)「日ソ戦争および戦後の引揚・抑留に関する総合的研究」

—研究成果刊行物—

(五十音順)

東俊佑 近世史

【定期刊行物】

東俊佑「日本における前近代サハリン・樺太史研究の動向：1264-1867」『北方人文研究』13号、2020年3月25日。[<http://hdl.handle.net/2115/77244>]

天野尚樹 ロシア極東近現代史・北東アジア国際関係史

【定期刊行物】

Naoki Amano, “Karafuto as a Border Island of the Empire of Japan: In Comparison with Okinawa”, *Eurasia Border Review*, Vol.10 No.1, 2019. [<http://hdl.handle.net/2115/78138>]

池田裕子 教育史

【定期刊行物】

池田裕子「日本における近代サハリン・樺太史研究の動向(その2)社会・文化」『北方人文研究』13号、2020年3月25日。[<http://hdl.handle.net/2115/77246>]

池田裕子「樺太庁豊原高等女学校の修学旅行：1940年の「聖地参拝」を中心に」『東海大学国際文学部紀要』12号、2020年3月18日。
[<https://opac.time.u-tokai.ac.jp/webopac/TC10002907>]

尾形芳秀 郷土史

【定期刊行物】

尾形芳秀「旧豊原(ユジノ・サハリンスク)の「日本人死没者合同墓碑」が国に移管」『樺連情報』836号、2019年12月1日。

加藤絢子 先住民族史

【定期刊行物】

加藤絢子「樺太先住民に関する漁業政策」『北海道民族学』16号、2020年3月。

*【著書】…著書、編書、翻訳書など。【論文集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【定期刊行物】…学術誌、紀要、会誌などに掲載された論文など。

■ 神長英輔 漁業史

【著書】

みなとさがんプロジェクト実行委員会『北の海へ』編集会議編(神長英輔監修)『北の海へ:新潟港の明治・大正・昭和』新潟日報事業社、2019年7月21日。

■ 倉田有佳 来日ロシア人史

【定期刊行物】

倉田有佳「樺太残留ロシア人との関りから考える明治末年の東京の「ロシアパン」ブーム」『パン文化研究』2号、2019年7月。

倉田有佳「「謎解き」初代駐日ロシア領事ゴシケーヴィチ」『日口交流』296号、2020年1月1日。

■ 坂本紀子 教育史

【定期刊行物】

坂本紀子、根崎美穂「樺太師範学校における教育」『北海道教育大学紀要教育科学編』第70巻1号、2019年8月。[<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/10533>]

■ 鈴木仁 文化史

【定期刊行物】

鈴木仁「樺太庁長官物語 16回(最終回) 第7代 昌谷 彰」『樺連情報』828号、2019年4月1日。

鈴木仁「幕末期の樺太を伝えるオーラルヒストリー 新聞記者山野天海と話者瀬川太右衛門」『北海道史研究協議会会報』104号、2019年6月20日。

鈴木仁「いだてん 金栗四三が走った樺太」『樺連情報』836号、2019年12月1日。

■ 醍醐龍馬 外交史

【定期刊行物】

醍醐龍馬「戊辰戦争期日露関係と樺太:雑居地をめぐる植民競争」『東アジア近代史』23号、2019年6月30日。

*【著書】…著書、編書、翻訳書など。【論文集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【定期刊行物】…学術誌、紀要、会誌などに掲載された論文など。

■竹野学…………… 経済史

【定期刊行物】

竹野学「日本における近代サハリン・樺太史研究の動向(その 1)政治・外交・軍事・経済」『北方人文研究』13号、2020年3月25日。[<http://hdl.handle.net/2115/77245>]

■中山大将…………… 移民社会史

【著書】

中山大将『国境は誰のためにある?: 境界地域サハリン・樺太』清水書院、2019年12月。

【論文集】

中山大将「帝国解体の後: 旧樺太住民の複数の戦後」三谷博、張翔、朴薫編『響き合う東アジア史』東京大学出版会、2019年8月28日。

【定期刊行物】

中山大将「サハリン樺太史研究会 10周年シンポジウム「世界におけるサハリン樺太史研究」」『北方人文研究』13号、2020年3月25日。[<http://hdl.handle.net/2115/77243>]

中山大将「中国語圏におけるサハリン樺太史研究: 庫頁島中国固有領土論・山丹貿易・日本帝国植民地」『北方人文研究』13号、2020年3月25日。[<http://hdl.handle.net/2115/77252>]

中山大将「サハリン/樺太史研究 DB(データベース)について: 個人作成資料目録の統合と活用」『北方人文研究』13号、2020年3月25日。[<http://hdl.handle.net/2115/77253>]

中山大将「日ソ戦後の在南サハリン中華民国人の帰国: 境界変動による樺太華僑の不本意な移動」『境界研究』10号、2020年3月31日。[<http://hdl.handle.net/2115/78155>]

■パイチャゼ スヴェトラナ…………… 教育学

【論文集】

Svetlana Paichadz, “Invisible migrants from Sakhalin in the 1960s: a new page in Japanese migration studies,” ed. Akihiro Ogawa, Philip Seaton, *New Frontiers in Japanese Studies*, Routledge, 2020年3月31日。

■韓恵仁…………… 韓国近代史

【定期刊行物】韓恵仁「韓国におけるサハリン関連研究状況と関連史料について」『北方人文研究』13号、2020年3月25日。[<http://hdl.handle.net/2115/77248>]

*【著書】…著書、編書、翻訳書など。【論文集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【定期刊行物】…学術誌、紀要、会誌などに掲載された論文など。

■ 玄武岩 メディア学

【論文集】

Mooam Hyun, “Japanese women in Korea in the postwar: between repatriation and returning home,” ed. Akihiro Ogawa, Philip Seaton, *New Frontiers in Japanese Studies*, Routledge, 2020 年 3 月 31 日。

■ ブル ジョナサン 日本近代史

【定期刊行物】

ブル ジョナサン「近年の英語圏のサハリン/樺太史研究」『北方人文研究』13 号、2020 年 3 月 25 日。
[<http://hdl.handle.net/2115/77249>]

■ 松山紘章 都市史

【定期刊行物】

松山紘章「樺太史研究: 面壁十年」『非文字資料研究センターnews letter』43 号、2020 年 3 月 20 日。
[<http://hdl.handle.net/10487/00016525>]

■参考資料……………非会員による研究成果刊行物

- 【定期刊行物】井原麗奈「日本期の南サハリンの公会堂に関する調査」『静岡大学地域創造教育研究』1号、2020年3月30日。[<http://doi.org/10.14945/00027537>]
- 【著書】NHKスペシャル取材班『樺太地上戦：終戦後7日間の悲劇』KADOKAWA、2019年10月。
- 【著書】太田満『中国・サハリン残留日本人の歴史と体験：北東アジアの過去と現在を次世代に伝えるために』明石書店、2019年10月25日。
- 【定期刊行物】大竹修「日本の近代獣医学史：南極観測隊・樺太犬の健康管理者 中村 良一」『動物臨床医学』第28巻2号、2019年6月25日。[<https://doi.org/10.11252/dobutsurinshoigaku.28.70>]
- 【定期刊行物】岡本愛子「日本の北を旅した人々：樺太を描く ブロートンの場合(後編)」『地理』第64巻8号、2019年8月。
- 【定期刊行物】岡本愛子「日本の北を旅した人々：樺太を描く ブロートンの場合(後編)」『地理』第64巻9号、2019年9月。
- 【論文集】北原次郎太「樺太アイヌのヌソく犬ぞり」大石高典、近藤祉秋、池田光穂編『犬からみた人類史』勉誠出版、2019年5月。
- 【定期刊行物】木村健二「書評 中山大将著『亜寒帯植民地樺太の移民社会形成—周縁的ナショナル・アイデンティティと植民地イデオロギー—』：京都大学学術出版会 2014年3月」『村落社会研究ジャーナル』第26巻1号、2019年10月25日。[https://doi.org/10.9747/jars.26.1_24]
- 【論文集】黄善翌「東アジアの戦後処理：韓人帰還問題を中心に(1945-46年)」三谷博、張翔、朴薫編『響き合う東アジア史』東京大学出版会、2019年8月28日。
- 【論文集】児島宏子「小熊秀雄(1901-1940)：小熊秀雄とロシア・サハリン、トマリ・泊居」長塚英雄責任編集『続々・日露異色の群像 30：文化相互理解に尽くした人々』生活ジャーナル、2019年12月10日。
- 【定期刊行物】阪口諒「ピウスツキ採集のアイヌ語樺太方言民話テキスト：「カレイ男とカジカ男」」『千葉大学大学院人文公共学府研究プロジェクト報告書』354号、2020年2月28日。[<https://opac.ll.chiba-u.jp/da/curator/107765/>]
- 【定期刊行物】阪口諒「ジョン・バチエラーの著作に含まれる樺太アイヌの口承文芸：ピウスツキ資料からの転載の実態」『口承文藝研究』43号、2020年3月。
- 【定期刊行物】佐々木麗「樺太先住民の日本国籍：国籍を剥奪されない権利」『北大法政ジャーナル』26号、2019年12月5日。[<http://hdl.handle.net/2115/76267>]
- 【著書】沢田和彦『プロニスワフ・ピウスツキ伝：〈アイヌ王〉と呼ばれたポーランド人』成文社、2019年12月24日。

*【著書】…著書、編書、翻訳書など。【論文集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【定期刊行物】…学術誌、紀要、会誌などに掲載された論文など。

- 【定期刊行物】竹内孝、中村和之、氏江敏文、鈴木邦輝「名寄市北国博物館所蔵の「南貝塚式土器」の胎土中の砂粒の化学分析」『名寄市北国博物館 北国研究集録』17号、2020年3月31日。
- 【定期刊行物】ディクソン J. M. (阪口諒)「ツイシカリ・アイノ(対雁アイヌ) : J.M.ディクソン著、1982年、東京」『千葉大学ユーラシア言語文化論集』21号、2019年12月25日。
[<https://opac.ll.chiba-u.jp/da/curator/108063/>]
- 【定期刊行物】ディン ユリア「ポストソ連期ロシアにおけるサハリンおよびクリルの主要な歴史研究」『北方人文研究』13号、2020年3月25日。[<http://hdl.handle.net/2115/77247>]
- 【著書】寺島伸二編著『蝦夷地開拓者栖原角兵衛：樺太場所、択捉場所を守る』北海道出版企画センター、2020年2月。
- 【定期刊行物】中村和之「19世紀後半から20世紀初頭の地図に見えるアレクサンドロフスク・サハリンスキーの土城」『満族史研究』18号、2019年12月。
- 【定期刊行物】中村 弘行「樺太における寒天製造の歴史(2)」『小田原短期大学研究紀要』50号、2020年3月。[https://opac8.com/user/odawara/ky/K202003_001.pdf]
- 【著書】藤澤衛彦ほか共編『最近検定市町村名鑑：一斤三府四十三県朝鮮台湾樺太関東州：附官国幣社及諸学校所在地一覧：大正十一年訂正三版(復刻版 日本立法資料全集)』信山社、2020年1月。
- 【著書】百瀬響編『北海道・東北と樺太におけるアイヌ・和人間の北方交易圏に関する実態研究』北海道教育大学札幌校、2020年3月。
- 【著書】吉原裕編著『間宮林蔵東韃紀行・東韃地方紀行諸本集』吉原裕、2019年5月。
- 【著書】李羲八、長澤秀『遺言：「樺太帰還在日韓国人会」会長、李羲八が伝えたいこと』三一書房、2019年7月。
- 【定期刊行物】渡邊香織「韓国におけるサハリン韓人の言語・文化教育研究」『千葉大学大学院人文公共学府研究プロジェクト報告書』353号、2020年2月28日。
[<https://opac.ll.chiba-u.jp/da/curator/108033/>]

—研究プロジェクト—

(代表者五十音順)

■加藤聖文 日本近代史

[継続]加藤聖文(国文学研究資料館)「日ソ戦争アーカイブズ構築に関する日露共同研究」国際共同研究加速基金・国際共同研究強化(B)、2018-2021 年度。

■神長英輔 漁業史

[最終]神長英輔(新潟国際情報大学)「近代東北アジア諸地域におけるコンブ漁業の比較研究」JFE21 世紀財団・大学研究助成金・アジア歴史研究助成、2017-2019 年度。

■白木沢旭児 日本近代史

[継続]白木沢旭児(北海道大学)「日ソ戦争および戦後の引揚・抑留に関する総合的研究」科学研究費補助金・基盤研究(A)、2017-2020 年度。

■醍醐龍馬 外交史

[新規]醍醐龍馬(小樽商科大学)「近代国際関係における雑居地樺太: 国境未画定の時代」科学研究費補助金・若手研究、2019-2021 年度。

■兎内勇津流 ロシア史

[新規]兎内勇津流(北海道大学)「シベリア出兵と東アジア国際環境の変動」科学研究費補助金・基盤研究(B)、2019-2022 年度。

■玄武岩 メディア学

[新規]玄武岩(北海道大学)「引き揚げと帰国のはざま: 1950~1970 年代における日本への帰還」科学研究費補助金・基盤研究(B)、2019-2021 年度。

■藤本健太郎 外交史

[新規]藤本健太郎(東北大学)「戦前期サハリン島をめぐる国際関係史」科学研究費補助金・特別研究員奨励費、2019-2021 年度。

■ブル ジョナサン 日本近代史

[継続]ブル ジョナサン(北海道大学)「The role of private charities in repatriation from the Japanese Empire」科学研究費補助金・若手研究、2018-2020 年度。

* 掲載している研究プロジェクトは、本会関係者が代表者をつとめるもののうち、サハリン樺太史関連のもののほか、周辺地域・領域をテーマにする物も含んでいる。[新規]…今年度より開始したもの。[継続]…中間年度にあたるもの。[最終]…最終年度にあたるもの。[単年]…今年度開始した単年度のもの。

参考資料 非会員による研究プロジェクト

- [継続]太田満(奈良教育大学)「移民学習論の再検討:「残留日本人学習」の教材開発を通して」科学研究費補助金・若手研究、2018-2021 年度。
- [新規]小口雅史(法政大学)「古代末期防御的集落の実態解明と、中世移行期日本北方世界を含む北東アジア史の再構築」科学研究費補助金・基盤研究(B)、2019-2022 年度。
- [新規]佐藤 丈寛(金沢大学)「古代ゲノム解析による東アジア:シベリア境界領域における人類集団の変遷の解明」科学研究費補助金・基盤研究(B)、2019-2023 年度。
- [新規]佐藤正則(山野美容芸術短期大学)「サハリン在留日本人とその家族の越境のライフストーリー」科学研究費補助金・基盤研究(C)、2019-2021 年度。
- [最終]竹松良明(大阪学院大学短期大学部)「戦前期の中国・樺太で刊行された日本語図書(文学関係中心)の書目総覧の作成」科学研究費補助金・基盤研究(C)、2017-2019 年度。
- [継続]中村和之(函館工業高等専門学校)「サハリンアイヌの総合的研究:その成立と変貌」科学研究費補助金・基盤研究(B)、2017-2020 年度。
- [新規]日比嘉高(名古屋大学)「帝国日本の書物流通ネットワークと知の文化基盤に関する調査および総合的研究」科学研究費補助金・基盤研究(C)、2019-2021 年度。
- [新規]百瀬響(北海道教育大学)「北海道・東北と樺太におけるアイヌ・和人間の北方交易圏の実態研究」科学研究費補助金・基盤研究(B)、2019-2021 年度。

* 掲載している研究プロジェクトは、本会関係者が代表者をつとめるもののうち、サハリン樺太史関連のもののほか、周辺地域・領域をテーマにする物も含んでいる。[新規]…今年度より開始したもの。[継続]…中間年度にあたるもの。[最終]…最終年度にあたるもの。[単年]…今年度開始した単年度のもの。

サハリン・樺太史研究会会則

2015 年 6 月 21 日改正

2011 年 5 月 28 日改正

2009 年 5 月 16 日採択

1. 本研究会はサハリン・樺太史研究会と称する。
2. 本研究会は、サハリン・樺太を対象地域とし、主として歴史分野に関する研究の促進と研究者の交流を目的とする。
3. 本研究会は、その目的を達成するために次の事業をおこなう。
 - (1) 定例研究会(例会)・シンポジウムなどの開催。
 - (2) 共同の研究・調査、およびその成果の公開。
 - (3) サハリンの大学・研究機関との交流、情報交換および共同研究の促進。
 - (4) その他本研究会の目的を達成するために適当な事業。
4. 本研究会は、サハリン・樺太の歴史に関心があり、その目的に賛同し、事業に協力する個人の会員からなる。
5. 新年度最初の例会時に総会を開催する。総会は本研究会の最高議決機関であり、総会の議決は原則として出席会員の過半数によって成立する。
6. 本研究会には次の役員をおく。

世話人(若干名)・会長(1名)・副会長(1名)・事務局長(1名)。
7. 世話人は総会で選出し、世話人の互選により会長・副会長・事務局長を選出する。
8. 会長は本研究会を代表し、会務を統括する。
9. 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
10. 本研究会に事務局をおく。事務局長は会長・副会長のもとで本研究会の事務全般を担当する。
11. 役員任期は2年とする。ただし再任はさまたげない。
12. 本会則は2015年6月から発効する。本会則の改正は役員議を経たのち総会の議決による。

サハリン・樺太史研究会役員(2019年度末現在)

2015年6月21日選出

2016年8月26日追加選出(*)

2017年7月22日追加選出(**)

会長：白木沢旭児

副会長：天野尚樹

事務局長：鈴木仁

世話人：池田裕子(**)、井潤裕、竹野学、兎内勇津流(*)、中山大将(*)

=====
サハリン樺太史研究会 2019 年度活動報告書

発行日：2021 年 3 月 31 日

編集者：中山大将

発行者：サハリン樺太史研究会

【公式 HP】 <http://sakhalinkarafutohistory.com/home.html>
お問い合わせは、上記 HP の問い合わせフォームよりお願いいたします。

=====